



三村松本社前に集まった広島大学附属小学校4年生の生徒
三村邦雄社長の顔もほころぶ（正面を向いている左側）

地元小学生が広島仏壇を学ぶ

三村松（広島）

1月27日、広島大学附属小学校4年生80人が三村松を訪れ、地元広島伝統的工芸品「広島仏壇」の製造について学んだ（同社三村邦雄社長は広島宗教用具商工協同組合理事長も務める）。

今回の仏壇についての学習は、地域の伝統的工芸品を学ぶ取り組みの一环として行われたもので、当日は二班に分かれ、三村社長の説明とDVD鑑賞による仏壇製造工程についての学習を班毎で交互に行った。

生徒からは「金箔って高いんですか」「どうして値段が高いものと安いものがあるのですか」という答えやすい質問から「これからも仏壇は売れるのですか」「どうして仏壇は売れるのですか」という質問まで、次々と飛び出した。仏壇をご安置する意味について三村社長が「お仏壇がある家庭は幸せになりますよ」と説明すると、「仏壇を買ってもらいます」と答えた生徒もおり、全員がニコニコとしながら三村松を後にした。

生徒達は学んだことを作文にし、先生により三村松に届けられた。

広島宗教用具商工協同組合では小学校で蒔絵製作など仏壇製造の実演も行っているが、「広島仏壇のことを知って頂くための活動をさらに行っていきたい」と三村理事長は語っている。



店内では広島仏壇の作り方などを二班に分かれて学んだ
熱心な質問が次々に出された